

令和6年度 府中市立府中第五小学校 学校経営計画

◇創造・前進◇

府中市立府中第五小学校
校長 森嶋正行

1 教育目標

平和を愛し、積極的に文化的な社会・国家の進展に寄与できる調和のとれた人格の育成を目指して、次の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- ◇健康で明るく 明るく健全な心と体をつくる : 「実践力」を育成するために
- ◇だれとも仲よく 思いやりをもってすすんで協力する : 「人間関係形成力」を育成するために
- ◇自分から努力する 目標に向かって全力で実行する : 「問題解決力」を育成するために

2 目指す学校

「笑顔と希望のあふれる学校～共に育つ、共に創る」

創立151周年を迎えた本校は、地域に愛され、地域に育てられている学校である。地域の児童を保護者、地域の方と共に育む学校を目指す。そのキーワードは「誠実さ」と「誇り」である。

本校では、教育目標の実現に向けて、以下の目指す学校を掲げる。

(1) 優しさのあふれる誠実な学校

- ・子供の心に徹して寄り添う温かい学校
- ・子供の良さを認め、分かる授業づくりを通して“学校が楽しい”100%の学校
- ・子供の思いと保護者の願い、地域の声に誠実に対応する学校

(2) お互いを尊重し認め合いながら、学び合い切磋琢磨する活気ある学校【共に育つ】

- ・友達と学び合い、切磋琢磨する中で共に笑顔が輝く学校
- ・全教職員が創造性を働かせ、信頼と期待を寄せられる活気ある学校

(3) 我が地域の子供の成長と我が地域の学校の発展を共に考える誰もが誇れる学校【共に創る】

- ・保護者、地域住民と学校が府中五小チームとして協働して子供を育む学校
- ・伝統を大切にしながら、常に発展を続ける創造的な学校

3 中期的目標と方策

急激に変化する共生の時代の中で、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育成するグローバル教育を推進する。

◇令和5年度創立150周年を中心に、地域住民・保護者・卒業生と在學生、教職員が一体となり、創立200周年に向けて新たなスタートを切る三年とする。本年はその最終年となる。

- ・「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、SDGsが目指す「誰も取り残さない」という視点に基づき、各教科等の横断的な取組によりグローバル教育を推進する。
- ・府中第五小学校の歴史と伝統を学ぶ中で、自分の住む町と学校に誇りをもち、様々なことに主体的に関わろうとする児童を育成する。
- ・学校運営協議会、保護者・地域の皆様の様々な御意見を踏まえ、児童の成長と学校の発展の為に創造的に学校経営を行う。

4 基本方針

- (1) 安全・安心な学校にし、子供の笑顔あふれる学校にする。
 - ・いじめ防止対策推進委員会を中心にいじめの未然防止、スピードある対応を図ること
 - ・特別支援校内委員会を中心に、全教職員での組織的な支援体制を図ること
 - ・意図的計画的な教育活動により、事故の未然防止を図ること
- (2) 基礎的基本的な学力の定着、体力の向上を図る。
 - ・学年に求められる学力を身に付けること
 - ・読書に親しみ、読書を楽しみ、読書に挑戦する児童を育てること
 - ・「特別の教科 道徳」「特別活動」を要として、人との関わりを大切にしたい、共生社会を生きる資質・能力を育むこと
- (3) 規律ある学校の中で、児童の自主的自発的な取り組みを図る。
 - ・あいさつ、返事、靴箱・傘立ての整理整頓ができる児童を育てること
 - ・集団生活での学校、学年、学級のルールを守ること
 - ・授業、教室環境等のユニバーサル化を図り、どの子も学びやすい環境にすること
- (4) 地域運営学校（コミュニティスクール）として、学校、地域・保護者と連携・協働した取り組みを推進する。
 - ・学校運営協議会と学校経営で密に連携を取り、学校と保護者、地域住民が共に児童の成長を考え、創造的に学校の発展を推進する。
- (5) 府中第十中学校と府中第五小学校の小中一貫教育の推進を図る。
 - ・九年間を見通した子供の育ちと学びの系統性と継続性を重視した教育を推進する。
 - ・年3回の小中連携の日を中心に、連携の具体化を図る。

5 重点目標と方策

- (1) 令和6年度は、特別活動と校内研究を核とした学校経営2年目である。自分にかかわる人、もの、ことをよりよくする為に、主体的に考え、行動する子供を育成する。その基盤となるのは学級経営である。各教科等の学び合う授業の充実と、学級活動や児童会活動、学校行事で目指す児童像を全教職員で共有し、チームで取り組む。
- (2) 学校教育目標に立ち戻り、育成すべき資質・能力の重要な視点として人間関係形成・社会参画・自己実現（実践力、問題解決力）を掲げ、教育活動の改善に取り組む。

【特別活動】

- ◇学校教育目標に掲げる「実践力」「人間関係形成力」「問題解決力」を実践的に育成し、主体的に課題に向き合い、考え、行動する児童を育成するため、特別活動を重視する。
- ◇義務教育9年間で系統的・継続的な取組により、特に重視して目指す資質・能力
「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」キーワードは「きづく」「つながる」「たかめる」
(府中市立小・中学校の教育課程編成に向けたグランドデザイン 府中市教育委員会)
- ◇新たに5月に五小まつりを実施し、学級経営の基盤づくりの活動とする。さらに児童が主体的にかかわり創る学校行事を目指し、児童が主体となって取り組むことを重視した音楽会、運動会を実施する。
- ◇学級経営を基盤とした教育活動～学級活動を要として
 - ・様々な集団活動を通して、学級や学校生活の中から集団や個人の課題を見だし解決するための方法や内容をみんなで話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり（学級活動①）、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」し実践したり（学級活動②③）して、よりよい生活や人間関係を築き、学校生活の充実と向上を図る。
 - ・1、2年生は全児童が担う当番活動を中心に、自分の役割を果たすことを通じて、人の役に立つことの喜びを知る。

- ・3、4年生は当番活動の上に、学級目標を目指して、学級をよりよくするために、自分ができることを主体的に考え行動する喜びを知る。
 - ・5、6年生はよりよい学級づくりの為に取り組んできた経験を生かし、自分たちの学校をよりよくするために、自分ができることを考え、行動する喜びを知る。
- ◇本校は全学年で学級編成替えを実施する。以下のことを意識して取り組む。
- ・1学期は学級、学年の基盤づくりの期間とする。自分や学級の目標を明確する話し合い活動等を通して、児童同士、児童と教師のよりよい人間関係を構築することを重視する。
 - ・2学期は1学期に築いた基盤の上に、音楽会、運動会の学校行事を、学年の仲間と協力し、工夫し、成長を実感できる活動にすることを重視する。
 - ・3学期は自分の成長を振り返り、希望をもって進級、進学できることを重視する。
- ◇6月の5年生わくわく自然教室、10月の6年生日光移動教室を実施し、日常とは異なる環境で共同生活を行う活動を通して、人間関係を築く力や規範意識、協働して課題を解決する力などの資質・能力の育成を目指す。
- ◇児童の主体的な活動を目指した児童会活動、クラブ活動、たてわり班活動の充実を図る。毎回の活動で児童に目標をもたせ、実施後に振り返りと次回の課題をもつことを丁寧に行うことで、児童が自分の取組のよさを知り、自己有用感を高める活動にする。
- ◇地域社会の清掃活動等のボランティア活動を推進し、感謝に思いをもつことや人の役に立つことの喜びを知る機会とする。
- ◇いじめ、暴力は絶対に許さず、校内の言語環境を整え、児童がいつも相談できる、児童と教師の強固な信頼関係と児童同士の温かな関係のもとでの教育活動を実施する。

【数値目標】

- | | |
|---|-------------|
| ・児童アンケート「学校に行くのが楽しいです。」 | 肯定的評価 95%以上 |
| ・保護者アンケート「学校は児童や保護者の相談に対して親身に対応し、いじめや不登校の防止や対応を適切に行う努力をしている。」 | 肯定的評価 95%以上 |

【学習指導】

◇基礎学力（思考力、判断力、表現力）の定着

- (1)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、問題解決的な学習や体験的な学習など、多様な教育方法や内容を工夫することにより、学んだことの意義を実感できる学習活動の充実
- (2)各教科等の指導において、一人1台のタブレットを活用し、個別最適な学びを実現し、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等の育成
- (3)教員の授業力の向上の為に、校内研究の充実を図る。

〈研究主題〉 『自分の考えをすすんで表現しようとする児童の育成』

〈研究の内容〉 低学年・中学年・高学年・仲よし学級で研究授業を実施

- ・算数科の授業研究を通して、「授業改善・授業力向上」「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」を目指す。

〈研究成果の検証（児童の変容）〉

【学力面】

- ・每学期実施する東京ベーシックドリル診断テスト
- ・全国学力状況調査の結果分析

【情緒面】

- ・児童アンケートの実施

- (4) 1、2年生の算数授業ではTTとして支援員が指導補助に当たり、配慮が必要な児童に有効に活用する。
- (5) 3年生以上の算数において習熟度別の指導を推進し、個に応じた指導を推進するとともに児童のつまづきをそのままにしない指導、より発展的な指導を行うことにより、全ての児童の学習

意欲の向上を図る。

- (6)理科支援員の活用等きめ細やかな指導を実践し、児童の学ぶ喜びや楽しさを引き出す授業を展開する。

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・「本校は、算数の少人数指導や算数TT指導の導入、学習支援員によってきめ細やかな指導が図られていますか。」 肯定的評価 90%以上
- ・「本校の教員は、分かりやすく工夫した授業を行っていると思いませんか」 肯定的評価 95%以上
- ・「お子さんは基礎的基本的な学習内容を理解して学習に臨んでいると思いませんか」 肯定的評価 90%以上

〈児童アンケート〉

- ・「授業の内容がわかります。」 肯定的な評価 95%以上
- ・「文を書くことが好きです。」 肯定的評価 80%以上

- ・東京都学力を図る調査、全国学力状況調査において東京都平均を上回る。
- ・毎学期実施する東京ベーシックドリル診断テストの80%を達成する児童が75%以上

◇学び合いを大切にした授業の基本を常に確認する。(授業のユニバーサル化)

(1)五小スタンダード(学習)の基本を意識する授業

- ・45分間の授業時間と始めと終わりのあいさつを意識する。
- ・授業に集中させるため、必要なものだけを机の上に出させる。
- ・学ぶ姿勢を意識させる。
- ・学び合いを大切にするため、『返事の「はい」』『「立って」発言』『語尾を意識させる「です」』に取り組む。
 - ※発言する人に意識を向ける為の、聞く姿勢を意識させる指導を重視
 - ※単語での発言ではなく、文を意識させることを重視
 - ※立って発言させること。しっかり聞こえる声の大きさでの音読や発言の繰り返しを重視
- ・授業の基本的な流れの確認：ねらいの提示→課題解決型学習→まとめ(振り返り)
 - ※児童に提示するねらいの吟味。ねらいと振り返りはセット。
- ・教室環境のユニバーサル化
 - ※黒板は授業で使うことに限定し、黒板及び黒板の周りの掲示物等を最小限にすることで授業に集中できる環境を作る。

(2)一人1台のタブレット及び大型提示装置等を効果的に活用し、全ての児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成する。(協働的な学び・個別最適な学び)

【特別支援教育の基本的な考え方】

- ・一人一人の児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行う。
- ・人権教育の充実により、お互いを尊重しあい、安心して学ぶ人間関係づくり
掲示物への配慮を：教師のコメントがあるか。文字に間違いはないか。
全員の児童の作品があるか。
四隅を画鋲などでしっかりとめているか。など
- ・ユニバーサル教育の視点を導入し、児童の困り感に寄り添った教育環境を創造する。
学びに必要なものの掲示、整理整頓、清潔(匂い等も含む)
- ・児童の成長のために、学校と家庭が常に心を通わせる信頼関係を基盤とする。
- ・特別支援教室「ひばり」と学級の連携を図り、安心して生活できる環境づくりに努める。
- ・特別支援学級(仲よし学級)併設校として、通常の学級と仲よし学級、特別支援学校との教科交流及び共同学習や理解授業を推進する。

(3)外国語活動（国際理解教育）の充実

- ・ 中学年（外国語活動）、高学年（外国語科）として、ALTをTTとした授業を展開する。
- ・ 外語大の留学生や府中市国際交流サロンなど、他国の方々との交流を通じた国際理解教育を実施する。
- ・ 児童が英語学習の成果を発揮し、主体的にコミュニケーションを図ることを目的に「世界とつながる英語 Enjoy Week」を設定する。
- ・ 英語でコミュニケーションを図る体験活動を通して、英語が「分かった」「通じた」という成功体験を得ることや、国際交流の楽しさや必要性を実感し、「もっと英語を学びたい」という意欲を高めることを目標に5年と6年で「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS(TGG)」を実施する。

(4)読書活動の充実

- ・ 朝読書、読書旬間を中心に、本に親しみ、読書に取り組む児童の育成を目指す。
- ・ 朝読書は児童と教員が一緒に読書に取り組む時間とする。
- ・ 読書活動や調べ学習を充実させるとともに、学校司書や図書ボランティア等と連携して、読書環境を整備する。
- ・ 全学年で読書記録帳を活用し、朝読書や読書旬間を通して、読書に親しみ、読書に取り組む児童を育成する。

〈児童の読書目標（年間）〉

低学年：年間100冊 中学年：年間50冊か2000P 高学年：3000P

(5)「特別の教科 道徳」の授業の充実

- ・ 自己を見つめ物事を多面的多角的に考え自己の生き方について考えを深めていけるようにする。
- ・ 思いやりの心や社会生活の基本的なルールを理解し、人と人、人と自然との豊かな関係に気付いたりする道徳的な心情を育む

(6)くすのきタイム（総合的な学習の時間）の充実

- ・ 未来へつなぐ府中2020レガシーを推進し、SDGsの視点に基づき、各教科等の横断的な取組によりグローバル教育を推進する。

◇児童の個々の学習能力を高める「ノート指導」の充実

学習に主体的に取り組む基本である、ノート指導の充実を図る。

- ・ 学年の実態に応じたノート指導のあり方
- ・ 学習の振り返りのできる板書の工夫：学年の実態に応じたノートの充実

◇家庭学習（自主学習）の定着

主体的な学びと基礎学力の定着のために家庭学習を推進する。

- ・ 自主学習の推進（学年の推進目標の設定）
- ・ 小学校卒業までに自分で課題を決めて学習できる力を育成

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・ 「本校の教員は、10分×学年や自主学習の家庭学習習慣の定着に向けて、その内容の提示や取り組み具合の確認と指導など適切な支援を行っていますか。」肯定的評価85%以上
- ・ 「お子さんは毎日（少なくとも平日）10分×学年以上の家庭学習を行っていますか。」肯定的評価80%以上

〈児童アンケート〉肯定的評価80%以上

- ・ 「宿題や自主勉強で「10×学年」分間の家庭学習をしています。」
- ・ 「話し合ったり考えを深めたり、広げたりする活動が好きです。」
- ・ 「歌ったり作ったり、絵や音楽を鑑賞することが好きです。」
- ・ 「前日に明日の準備をして、忘れ物をしていません。」
- ・ 「話し方、聞き方や発言の仕方など、授業のルールを守っています。」
- ・ 「私は読書に取り組んでいます。」

◇児童が運動の喜びを感じ、体力向上につながる取組の推進

- ・新体力テストの結果等を活用した授業の充実を図るとともに、ロング昼休み・なわとび旬間・持久走旬間・ふちゅうロープチャレンジ等の実施を継続的に取り入れる。
 - ・ロング昼休みの外遊びの奨励（生活指導部との連携）
 - ・地域スポーツ大会への児童の積極的な参加（保護者、地域との連携）
 - ・地域の児童スポーツ団体と連携した取組の推進

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・「本校は、体力向上に向けて、体育授業や水泳指導、縄とび旬間など、子供が楽しみながら体を動かし、健康な身体を育めるよう取り組んでいますか。」 肯定的評価 90%以上

〈児童アンケート〉

- ・「私は、運動することが好きです。」 肯定的評価 90%以上

【生活指導】

◇「あいさつ運動」を中心に子供たち同士、教師と子供の温かな人間関係を構築する。

いつでも、どこでも、誰にでもあいさつのできる児童の育成

- ・教師同士、教師と児童のあいさつから。
- ・年3回生活習慣ウィークに合わせてあいさつ週間の実施

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・「お子さんは挨拶や言葉遣いなど、集団生活における基本的な生活習慣や道徳的な心がけなどが身に付いていると思いますか」 肯定的評価 90%以上

〈児童アンケート〉

- ・「あいさつを自分からしています。」 肯定的評価 95%以上

◇府中五小いじめ防止基本方針に基づき、いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応

- ・いじめに関する研修の実施（職員会議等年3回以上）
- ・いじめに関する授業の実施（学期初め年3回）
- ・いじめアンケートの実施と個人面談の実施（年5回）

◇不登校0

- ・不登校0を目指し、不登校や学校不適応、虐待等の諸課題に対して組織的に対応し、関係機関等との連携を深め、校内外の組織的な体制を充実させる。サポートルームに支援員を配置し充実を図り、児童の学校、教室の学習への参加に向けて、丁寧で思いやりのある対応を行う。

◇人権教育の推進

- ・特別活動、道徳科を要に、教育活動全般を通して、違いを認め合い、みんなと共に生きていく人間関係形成力、自分も他者も幸せになる為に自分のできることを考え、行動する力の育成を目指す。
- ・教師の児童に対する呼称のしかたを男女関係なくさん付けに統一する。

◇府中五小スタンダード（学習・生活・給食・掃除）の徹底

- ・五小のきまりを守って学校生活をする意識を高める指導を実施

◇安全教育の充実

- ・安全指導年間計画に基づき、各教科・領域と関連付けて、児童の発達段階に応じた安全教育の充実を図り、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動と結び付けることができる資質・能力を育成する。

◇食物アレルギー児童のための適切・確実な対応と事故の防止

- ・児童の食物アレルギーに関する知識を深め、保護者と連携したアレルギー対策を徹底するとともに、給食センターと連携した「食育」授業を実施し、健康教育を推進する。

◇健康教育の推進

- ・自分が健康であるために、自分の体調を管理すること、手洗いや消毒、マスクの着用等を自分で判断することができる指導を推進する。

◇特別支援教育の視点をもって、一人一人を育成する。

- ・特別支援コーディネーターを核とした特別支援校内委員会、児童に寄り添ったいじめ防止対策推進委員会を中心に教職員が組織的に動き、児童一人一人を大切にしたい安心・安全な学校とする。
- ・学校生活支援シート及び個別指導計画を作成し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・生活指導夕会や特別支援全体会、特別支援校内委員会の充実
- ・特別支援学級「仲よし学級」特別支援教室「ひばり」と連携し、子供一人一人を大切にしたい細やかな教育を図る。
- ・通常の学級の児童と特別支援学級「仲よし学級」の児童との交流活動等を通して、コミュニケーションの力や相手を思いやる力を育てる。

◇交流教育の充実

- ◇交流教育委員会を要として、仲よし学級児童と通常の学級児童の相互の交流を積極的に企画・実施する。その際は仲よし学級の児童と通常学級の児童それぞれの児童に具体的なめあてをもたせ、共生社会を生きる児童の資質・能力を育成する。

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・「本校の教員は、お子さんのよさや課題を理解して指導、支援に当たられていますか。」

肯定的評価 90%以上

〈児童アンケート〉 肯定的評価 95%以上

- ・「手洗いや消毒など、健康であるために気を付けています。」
- ・「先生は、私のよいところを認めたり褒めたりしてくれます。」
- ・「先生は、私が困った時、私の話を聞いて受け止めてくれます。」
- ・「相手を責めず、優しい言葉で伝えるように努力します。」

【保護者・地域との連携】

- ◇学校運営協議会を核として、学校・家庭・地域が協働して、児童の教育活動の充実、地域での健全育成、地域の活性化を推進する。
- ◇学校運営協議会、PTA、五小スクールサポーターと連携し、府中五小防災訓練、遊びの会、地域安全マップ作りの取組の推進する。
- ◇PTA、五小スクールサポーター、NPO 法人府中かんきょう市民の会、本宿府中囃子保存会と連携し、地域の自然・歴史・伝統文化について学ぶことを誇りや喜びと感じられる教育活動を充実する。
- ◇地域農家の澤井行雄さんの御協力のもと、学校園での野菜栽培や水田学習などを行い、栽培の喜びや日本の伝統文化である稲作のよさについて学ぶ機会の設定する。
- ◇府中第十中学校と府中第五小学校が連携し、義務教育9年間を見通した教育活動を推進
- ◇地域の幼稚園や保育園の園児への学校案内や共に遊ぶ活動を通して、就学前教育機関等と連携した取り組みを行う。
- ◇「ひな草の会」「府中PFS」と連携した花いっぱいプロジェクトの実施する。
- ◇児童の登下校の見守り等の「西府エリアささえ愛の会」との連携する。
- ◇「芝生管理組織」を中心に、ジュニアスポーツの五小ファイブファイターズと本宿蹴球団と学校、地域が連携した芝生管理をさらに推進する。
- ◇学校の教育活動の発信のため、学校便り、学校HPの充実を図る。
- ◇青少年対策第十地区委員会、青少年第四地区委員会の活動に積極的に関わり、地域の児童を地域とともに育てる。
- ◇地域の行事や府中市の公募作品にめあてをもたせて取り組む

【地域行事】

青少年対策第四地区音楽祭、青少年対策第十地区音楽祭、遊びの会、府中市自転車競技大、熊野神社古墳まつり、西府文化センターまつり等

【公募作品】

青少年健全育成標語コンクール、ロータリー作文、人権作文、税の書道展等

◇ジュニアスポーツ団体との連携

- ・府中五小ジュニアスポーツ連絡会の学期1回の開催
- ・府中五小ジュニアスポーツの映像等での全児童への紹介
- ・大会等での活躍を紹介

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・「本校は、教育目標や基本方針、学校の様子を学校だより、保護者会、HPブログ等で分かりやすく説明していますか。」 肯定的評価 95%以上
- ・「本校は、中学校との交流活動や連携を通して、小学校から中学校への切れ目のない指導に取り組んでいますか。」 肯定的評価 90%以上
- ・「本校は、学校運営協議会を中心とし、保護者や地域と協働した教育活動に取り組んでいますか。」 肯定的評価 95%以上

〈児童アンケート〉 肯定的評価 80%以上

- ・「早寝早起きをして、朝ごはんをしっかりと食べています。」
- ・「テレビを見たり、ゲームをする時は、時間を決めてそれを守っています。」

【危機管理体制の充実】

◇毎朝の昇降口での安全のための見守り

◇通学路の安全点検の実施

◇週番・看護当番による休み時間の校庭、校舎内の見守り

◇様々な想定避難訓練、不審者対応訓練、セーフティ教室、集団下校訓練、地域と連携した防災教育・防災訓練のより一層の充実。

◇校内・地域安全点検、安全マップ作り

◇職員の危機管理意識の高揚、危機管理システムの確立

【数値目標】令和5年度より向上させる。

〈保護者アンケート〉

- ・「本校は、児童の生活や安全（生活指導上の配慮や不審者対応、避難訓練など）について十分な対応をしていますか。」 肯定的評価 95%以上

【教職員の連携】 ◇府中第五小学校の教育力の強化

◇学年で学年の児童を育成する。学年主任を中心とした学年経営の充実

- ・学年のルールの統一化（学習面、生活面）
- ・児童理解を中心とした温かな学校・学年・学級作りを目指す
- ・児童に寄り添った児童理解（「朝・昼・放課後は児童と共にある。」）による、温かな人間関係の構築

◇OJTを充実させ、教員同士の学び合いを活性化し、教員の資質能力の向上を図る。

◇担任と専科教員の連携を強化し、協働して児童の教育に取り組む。

◇事務室との連携

- ・教職員が一体となって児童の教育に取り組む。
- ・限られた学校予算を有効に児童の教育に活用するため、事務室との連携を重視する。

- ◇経営支援会議を核に校務改善に取り組み、職務の効率化を図る。
- ◇ライフワークバランスを意識した仕事の在り方を目指す。日々退勤時刻を意識した取り組みを行う。
- ◇電話や来客には、自分が学校の顔であるとの意識で、丁寧に対応する。
 - ・電話では、必ず自分の立場、名前を明確にする。「〇年〇組担任の〇〇です。」等
 - ・来校（保護者含む）へのあいさつの励行
- ◇全教職員のチームワークを重視する。
 - ・報告・連絡・相談を徹底する。
 - ・管理職へ、学年主任へ、分掌主任へ
悪いことは必ず対応する前に報告を！事後報告は×
 - ・サービス事故は絶対に起こさない。
机上、教室の整理整頓
個人情報持ち出しルールの徹底
呑んだら乗らない。自転車・自動車 ※自転車のヘルメットの着用を推進する。
 - ・いつも人材育成・府中五小の良さを引き継ぐ意識で職務を！

【数値目標】 令和5年度より向上させる。
 〈保護者アンケート〉
 ・「本校は、学年のチーム指導体制が機能し、生活や学習について、歩調を合わせて取り組むことができていますか。」肯定的評価 95%以上

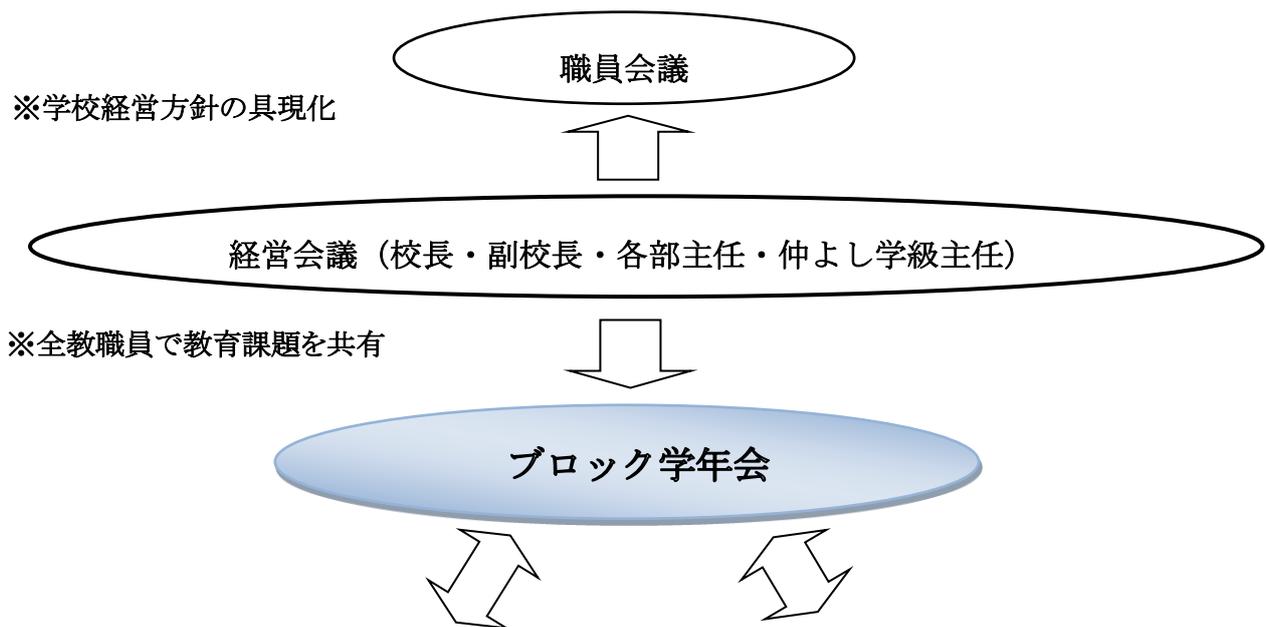
【重点目標を達成するための学校組織】

①学校組織の活用

- ・様々な教育課題に組織的に対応するため、教員が創造的で活気ある学校組織を目指し、研究推進部、特別活動部、生活指導部、行事部、教務部の5つの核となる部会と特別支援学級（仲よし学級）、特別支援教室「ひばり」、事務室で教育課題に取り組む。
- ・経営会議、ブロック学年会の充実を図り、組織的に教育課題、人材育成に取り組む。

②学校組織

- ◇経営会議において学校経営方針の具現化のための道筋を示し、各分掌組織で具体化
- ◇ブロック学年会等、全教職員によるコミュニケーションの充実を図りながら取り組むチーム重視
- ◇徹して子供の心に寄り添う、いじめ防止対策推進委員会、特別支援校内委員会の組織的な取組





「経営会議」

- ・校長、副校長、研究主任、特別活動部主任、生活指導主任、行事部主任、仲よし学級主任で組織する。
- ・経営会議は、校長の経営方針のもと、学校運営の方針を協議する最高協議機関。学校の短期的・中期的・長期的な課題について協議する。

「ブロック学年会」

- ・全教員が主体的に学校経営に参画する最重要のコミュニケーションの場。各学年の児童の実態を的確に把握し、学校運営に直結させることが目的である。

「いじめ防止対策推進委員会」

- ・いじめ防止教育の推進を図る。
- ・いじめに関わる授業の推進。いじめに関わる実態調査。
- ・いじめを早期に発見し、早期の対応策について具体的な検討・実施する。
- ・不登校児童、欠席の多い児童について全教職員で共有し、きめ細やかな対応を検討；実施する。

「食物アレルギー対策委員会」

- ・食物アレルギー児童への対応を確実に組織的に実施するために設置する。
- ・食物アレルギーの対応に必要な児童の情報の共有を確実に行う。
- ・全教職員が食物アレルギー対応マニュアルを確実に実施できる研修を実施する。
- ・保護者、給食センターと確実な情報共有の実施を行う。

「情報教育委員会」

- ・ICT 関係全般を扱う。
- ・情報教育のための情報発信を行う。
- ・情報セキュリティ委員会と連携し、研修会を実施するなど児童の個人情報の管理の周知と徹底を図る。

「情報セキュリティ委員会」

- ・個人情報の管理を確実に行うため設置する。
- ・情報セキュリティに関わる内容についての周知と徹底を図る。
- ・情報セキュリティに関する研修を実施する。

「特別支援校内委員会」

- ・配慮を要する児童一人一人について全教職員で共通理解を図り、児童の困り感に寄り添う対応を行う。
- ・特別支援コーディネーターを要として、特別支援教室ひばりの教員及び関係機関と連携する。

「交流教育委員会」

- ・互いの違いを理解し、尊重する児童の育成を目指す取り組みを行う。
- ・仲よし学級児童と通常の学級の児童の交流教育の充実を図る。

「校務支援会議」

- ・副校長、事務主事、用務主事、経営支援担当で組織する。
- ・事務室と職員室が連携し全教職員でチームとして取り組む環境を整える。
- ・校務改善について検討し提案する。

③学校支援員、サポートルーム支援員、学校と家庭の支援員、副校長等校務改善支援員等の活用

【活用方針】

- ・児童が意欲的に学習に取り組み、充実した学校生活にするため、学校経営支援等の予算を活用し、きめ細やかな指導を実現する。
- ・教職員の校務改善を進め、学校経営に参画できる体制を整え、一層の学校教育の充実を図る。

【活用方法】

- ・担任との TT 指導や特に配慮を要する児童の個別指導のために学習支援員を配置
- ・図書館指導、理科指導を充実させるため、図書館指導補助員、理科支援員を配置
- ・通常の学級の配慮を要する児童の補助のために、学校支援員を学年に配置
- ・児童が安心して学校に通うためのサポートとしてのサポートルームの充実のためにサポートルーム支援員を配置する。
- ・教職員の校務の改善を図り、学校経営を一層円滑にするために、副校長等校務改善支援員を配置

④教職員の働き方改革を推進する。

◇学校組織の効率的な運用及び業務の効率化を図り、教職員の働き方改革を推進する。

- ・ナビルカクロックにより、勤務時間の意識化を図る。
- ・カリキュラム・マネジメントを推進し、教育課程の行事の見直しや授業改善を行うことで教育の充実と働き方改革の両立を図る。
- ・校長の経営のもとで学年、学校の統一的な指導と教員一人一人の得意分野の指導を活かした教育活動を展開する。
- ・机上整理や資料整理の工夫により業務の効率化を図る。
- ・会議の精選・効率化を図る。